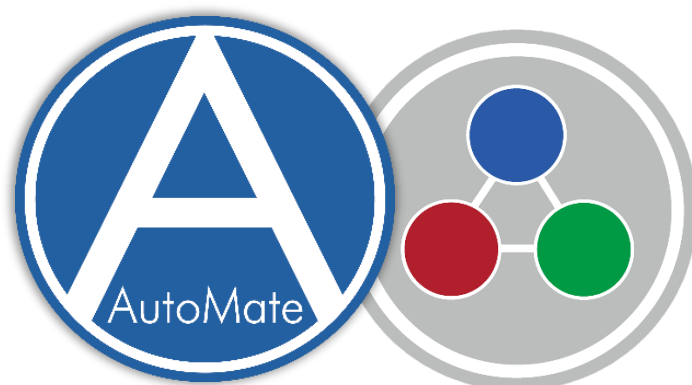


AutoMate リリースノート

【22.1.0.64】



三和コムテック株式会社



作成日：2023/01/19

更新日：2023/02/09

内容

1. はじめに	3
2. AutoMate 22.1.0.64 リリースノート	4

1. はじめに

本書は AutoMate ver.22.1.0.64 の変更箇所について、リリースノートとして記載しています。

2. AutoMate 22.1.0.64 リリースノート

【重要】

- ・ AutoMate Desktop および AutoMate Plus/Ultimate のバージョンはリセットされ、11 から 2022 に変更されました。サービス名およびデフォルトのインストール先フォルダー、テキストログのファイル名も変更されました。
- ・ AutoMate Desktop 2022 または AutoMate Plus/Ultimate 2022 をインストールする前に、Windows のバージョンが .NET Framework 4.8 と互換性があることを確認してください。詳細は .NET Framework のシステム要件 (<https://learn.microsoft.com/en-us/dotnet/framework/get-started/system-requirements>) を参照してください。
- ・ バージョン 11.7.1 の時点で、AutoMate Plus/Ultimate は 64bit インストーラーとしてのみ利用可能です。

【バージョン 22.1 における仕様変更】

- ・ Basic Function および Extended Function 呼び出し時の引数括弧の省略が不可になりました
 - 従来のバージョン (11.7 まで) では、Basic Function および Extended Function の引数の無い関数について、括弧を省略することができていました。

新バージョン 22.1 以降においては、構文の厳格化により引数括弧の省略ができなくなりました。

【例】括弧省略時：%GetAgentName% ※バージョン 22.1 以降は不可に

本来の記述：%GetAgentName()% ※今後はこちらで記述してください

【バージョン 22.1 における既知の不具合】

今回リリースされるバージョン 22.1 において、パフォーマンス改善を目的とした内部仕様変更 (Variable Engine の変更) により、以下(1)(2)の挙動の変化が発生しています。

これは次のリリースにおいて修正される予定です。

影響の大きいユーザー様におかれましては、次のリリースを待つことをご検討いただくようお願いいたします。

(1) If アクションの「単純な条件式」における True/False (真偽) 記述方式による判定の挙動

従来のバージョン(11.7 まで)では、True/False の真偽値判定においては以下の記述が使用できました。

True, "True", 'True' true, False, "False", 'False', false, 1, 0

新バージョン 22.1 においては「"True"」「True'」「"False"」「'False'」(ダブルクォーテーションまたはシングルクォーテーションが必要) の 4 点のみが真偽値として判断されるようになっています。

(2) 「Basic スクリプト」アクションにおける日付型の戻り値のフォーマット変化

従来のバージョン (11.7 まで) では「YYYY/MM/DD」で得られていた戻り値が、

新バージョン 22.1 においては「MM/DD/YYYY hh:mm:ss」に変わっています。

【新機能 Desktop/Plus/Ultimate 共通】

・SharePoint の機能強化

- SharePoint アクティビティは、複数選択のルックアップ、ユーザーおよびグループ列から情報を取得して、データセットに入力できるようになりました。
- SharePoint Online ベースの接続で多要素認証(MFA)とシングルサインオン(SSO)をサポートするために、Azure AD の任意および対話型の認証タイプが追加されました。
- SharePoint Online での先進認証をサポートするために、SharePoint アプリのみと Azure AD アプリのみの認証の種類が追加されました。
- SharePoint アクションおよび SharePoint ブラウザから SharePoint 2007 および SharePoint 2010 のサポートが削除されました。
- データセットで SharePoint 列の名前が変更されないようにするオプションを提供する SharePoint アクティビティ（ファイルの取得、フォルダーの取得、リストアイテムの取得）に「内部カラム名の保持」パラメータが追加されました。
- ユーザー資格情報が有効でない場合、SharePoint アクティビティが正しく失敗するようになりました。
- 「SharePoint - フォルダーの取得」アクティビティで SharePoint 2019 およびオンラインベースの接続実行時に「Virus Status 列が既に存在します」というエラーメッセージが表示されなくなりました。
- SharePoint コンディションにて、「コンディションをただちに評価する」に設定されている場合、「サポートされていません」というエラーを表示しなくなりました。
- SharePoint トリガーは、タスクとワークフローを適切に起動するようになりました。
- SharePoint トリガーは Transmission Control Protocol (TCP) を使用するよう更新されました。デフォルトのポートは 9705 です。

・Variable Engine の機能強化

- Variable Engine はシステム全体のパフォーマンスを改善するために最適化されています。

・ようこそタブの追加

- AutoMate Desktop のタスクアドミニストレーター、AutoMate Plus/Ultimate の管理コンソールに新しい[ようこそ]タブが追加されました。

※リンク先は AutoMate の開発元 FORTRA 社の Web ページです

- タスクアドミニストレーターまたは管理コンソールが切断された場合、[ようこそ]ページの「Connect」ボタンが表示され、接続を再確立できます。

【新機能 Plus/Ultimate のみ】

- ・ エージェントグループの配布の機能強化
 - オフラインのエージェントを無視して、ラウンドロビン方式で1つのエージェントで実行するオプションが追加されました。
- ・ ワークフローの優先度
 - ワークフローの優先度を使用すると、サーバーで現在実行中のワークフローに基づいて、ワークフローを実行するかどうかを管理できます。次のいずれかを選択します。
 - 現在実行中の他のワークフローに関係なく、常にワークフローを実行する
 - 待機時間を設定するオプションや、待機時間を超過した場合の対応方法など、一度に実行される特定のワークフローのインスタンス数に制限を設定する
 - 待機時間を設定するオプションや、待機時間を超過した場合の対応方法など、一度に実行される全てのワークフローのインスタンスの数に制限を設定する
 - タスクの優先度と同じインターフェースデザインを使用します。

【機能強化】

- ・ Windows Server 2022 のサポートが追加されました。
- ・ Email サーバー設定に先進認証を使用した Exchange Online のサポートが追加されました。
- ・ タスクエージェントの Email プロパティに先進認証を使用した Exchange Online のサポートが追加されました。
- ・ Email プロパティに先進認証を使用した Exchange Online のサポートが追加されました。
- ・ 「Web サービス - 関数の実行」アクティビティは AutoMate Plus/Ultimate の資格情報機能をサポートするようになりました。
- ・ 「ターミナル - 接続」アクティビティは AutoMate Plus/Ultimate の資格情報機能をサポートするようになりました。

【不具合修正】

- ・存在しないデータセット行の値を取得、設定またはアクセスすると、実行時にエラーメッセージが適切に表示されるようになりました。
- ・AutoMate レコーダーは、米国以外の新しいバージョンの Chrome ブラウザで Web ページのアイテムを適切に操作できるようになりました。
- ・事前定義されたデータベース接続がタスクビルダーから実行されたときに失敗しなくなりました。
- ・Email トリガーは EWS Online ベースの接続で正しく機能するようになりました。
- ・同じ列名を持つ複数のテーブルをクエリするとき、「データベース - SQL クエリ」アクティビティでエラーが表示されなくなりました。
- ・「データセット - 複製」アクティビティは、複製されたデータセットが編集されたときに、元のデータセットを編集しなくなりました。
- ・「データベース - SQL クエリ」アクティビティのヘルプページが更新され、複数のステートメントが一度に送信されるのではなく、個別に送信されることが明確になりました。
- ・異なるまたは同じプロファイルを使用する別のブラウザセッションが存在する場合、「Web ブラウザー - 開く」アクティビティはセッション内の Chrome プロファイルを正しく読み込むようになりました
- ・タスクが Microsoft Edge ブラウザを閉じた時、一時ファイルが適切に削除されるようになりました。
- ・Microsoft Edge ブラウザ関連のプロセスは、64bit バージョンの Windows 上で AutoMate Desktop 32bit を実行しているシステムで適切に終了するようになりました。
- ・「FTP - 詳細」アクティビティで「Get long file list」FTP コマンドを使用しているときに、無効なフォルダーに対して「No such file」というエラーメッセージが表示されなくなりました。
- ・他のタスクプロパティが保存されたときに、タスクの優先度がリセットされなくなりました。
- ・ネストされた再帰呼び出しがループアクションで適切に機能するようになりました。
- ・「圧縮 - 圧縮」アクティビティは圧縮プロセス中に大きなファイルを破損しなくなりました。
- ・AutoMate11TaskEvents.txt はスペイン版とフランス語版の Windows でデータを適切に記録するようになりました。(AutoMate Desktop 2022 で Automate2022TaskEvents.txt に名前が変更されました)



お問い合わせはこちらまでご連絡ください。

Email : automate@sct.co.jp